

時事新報

第千三百六十六號

丙以七月廿九日
日山午前五時二十九分
入午後六時三十二分
月出午前三時三十六分
入午後五時三十二分
朔午前三時五十三分

(西暦一千八百八十六年)

自 一 行	三 三 十 二 十 三 十 四 十 五 十	一 行 廿 四 字 詰	一 行 廿 四 字 詰	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰
一 日 限	六 日 以 上	一 日 限	六 日 以 上	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰
六 日 以 上	七 日 以 上	六 日 以 上	七 日 以 上	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰
七 日 以 上	十 六 日 以 上	七 日 以 上	十 六 日 以 上	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰
十 六 日 以 上	二 四 周 期	十 六 日 以 上	二 四 周 期	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰	時 事 新 報	廣 告 料 前 金	一 行 廿 四 字 詰

時事報紙

○ 東京府論達第
上水路及上水源
ノ往々之アリ先
締ナ爲スト雖病
流コ至リテハ數
スルノ虞ナシト
チ消滅セシムル
行フ能ハサル
明治十九年
○ 流行地虎列刺
（流行地）
京都府
内上下兩京區
大坂府
内四區西成郡
神奈川縣
横濱區ニ新

機械雜貨小間物等の營業を爲す者もあるべしと雖とも外
人中起業の資本と精神とを所持するものは先づ何事よ
着手す可きや或る人の説に日本國中の物産にて產額大
に利益も多く後來最も多望ある者は蠶絲なり然るに今
日迄の處にては此產業未だ甚だ發達せず蠶絲樹桑毛學
理に據らず製糸の器械は不完全にしてあら善だ爾を
以て精粗不精の糸を製し居るが故ふ外國人内地に入ら
ば先づ製糸場を設立し自下佛蘭西伊太利等ふて使用を
る日新改良の製糸器械を据え付け賃錢の低き日本に職
工と雇ふて歐米向きの善良なる生糸と製し自製直輸其
利益少々あらざれば外國人の着眼は其れ蠶絲業なる說
あきゝ云ふものあり又一説に右等の所見は畢竟日本流
の凡眼のみ蠶絲業多少の利益もあらんかあれども是を

○東京府諭達第三號		上水路及上水源流ノ近傍ニ於テ虎列刺患者ナ發生スル ト往々之アリ先般ヨリ警察官ノ配置ヲ密ニシ十分ノ取 締ナ爲スト雖病毒ナ水中ニ濾スノ無キヲ保シ難ク又源 流ニ至リテハ數百ノ細流ヲ容レ、ナ以テ自然病毒ナ混 スルノ虞ナシトセス故ニ此際飲食ニ供スル上水ハ病毒 ヲ消滅セシムルガ爲メ濾過煮沸シ若シ濾過煮沸ヲ兼ナ 行フヲ能ハサル者ハ必ズ奏沸シテ用フヘン	
○流行地虎列刺		明治十九年八月二十七日 東京府知事高崎五六	
京都府	流行地	八月二十四日	新思
大坂府	内上・下兩京區ニ新起一人新舊死亡二人	十五人	新舊死亡
内四區西成郡	新恩百四十四人新舊死亡七十二人	九十四人	八人
神奈川縣	同	六十五人	二十九人
内横濱區ニ新草十二人新舊死亡六人			

にて其評判甚ざ宜しく之を精製輸出すれば一麻の賛同
品とも爲るべきに今日まで深く之れに注意するものさ
へ少なし今後外國人が雜居して手づから此山を解剖す
るに至らば啻ふ其皮膚の利益を取るのみならず其肉を
取り其骨を取り毫も還利を留めざるや疑を容れど我商
工業家は外國人を玄て此利益と壟斷せん先ざるの覺悟
ありや今回井上山縣兩大臣は府下の紳商諸氏と同伴す
て北海道を巡回中なるが此等も亦此邊に見る所なりて
然るゝ外國人の雜居も先だつ今日は實より是れ千歳の一
時、我商工業家は今より用意玄て人の先する所と爲る
と勿も此事に就ては我輩尙我商工業家に質さんとする
所のものあり他日重ねて之と開陳そるとある可し

の掲げ取りりと爲るべし左れば難居候外國人の着眼はハ
明山の利益にあるあらんと云ふ我輩思ふに天下に利はハ
一處に在らす其利を取るの方法も亦一樣あらざれば難
居後の外國人中華業に從事する者先あらん山の利益
に着眼せる者もあらん其射利の方向一あらざる可し
雖も我商工業家の身と志て今後最も注意して外國人の
先する所とあらざるやう今より心掛く可き者は乙説に
所謂山の利益なる可し從來日本人は到る處に寶山脉の
蜿蜒連綿たるを抱きあがら其山より得る所は木材及び
其皮膚の諸鑄物位に止まり深く其骨肉と開掘することを
知らず特此山より得るのは金銀銅鐵の類に限らす
巧に之を利用すれば硫黃を取り石灰と製し造家石を得
る等其利益限ある可らず日本の硫黃は外國の製造所

(西曆一千八百八十六年)

は日本人も其利を知りて從來營業の熟練もあれば無に之れと競争するも妙あらず外國人は夫れよりも寧ろ日本人の氣の附かざる利益に着眼するあらん日本人の氣の附かざる利益とは何ぞ山の利益即ち是あり蓋しこそ本人は工業は手近く目前の利に走るを常とす又みれども走らざるを得ざるの事情ありて奥深き山の利益を收ると知らず日本の山は到る處金銀銅鉄諸鑛物諸寶石等富み其富源の深さと測り知る可らざれども從來之を埋藏するもの甚だ少く近年石炭山等は世の需要ふ應ひて引き續き開掘の様子なれども金銀銅鉄其他の鑛物寶石等は起業家の資本乏しく俗に山師と唱ふる輩が此等の事業に着手するが故に大抵半途にして資本竭き纔かに僅豚に掘り當てたる處みて破産するもの多けれども資本又不足なき外國人が此事業に着手しさらば寶山空手は嘆あきは勿論、差當り周圍に競争者もあくして丸で

兵庫縣	同	四十二人	二十七人
內神戶區三新堀九人新舊死亡四人			
長崎縣	同	二十七人	十九人
長崎區二新患十四人新舊死亡八人			
千葉縣	同	六十二人	四十八人
三重縣	同	十一人	六十八人
福井縣	同		
島根縣	同		
山形縣	同		
二十九人			
百四十人			
六十九人			
一八八人			

濟^{スル}取^リて^も利^あて同氏^は當^時右試驗^{しやん}播州^{はり}加古郡^{かこ}の高臺地^{たいたい}爾來^{じるまへ}西洋^{ヨーロッパ}葡萄^{ブドウ}數十^{いくそく}株^{けつ}成^る之^を是^れ也^や

島根縣	同	新潟縣	同	福岡縣	和歌山縣	山口縣	廣島縣
富山縣	同	新潟縣	同	小計新患七百七十八人新舊死亡四百二十六人	八月二十四日	三十六人	三十七人
長崎縣	同	新潟縣	同	內長崎區三新患十一人新舊死亡六人	二十九人	三十二人	五十五人
新潟縣	同	新潟縣	同	內新潟區三新患十人新舊死亡二人	三百十四人	二十八人	四十八人
百八十一人		百八十一人		二千五人	十七人	十八人	三十九人
九十八人		九十八人		二千三十人	三十六人	三十八人	四十人
廿八人		廿八人		二千五百人	三十五人	三十六人	三十七人

○		佐賀縣	嘉知縣
	同二十一日	同二十二日	同二十三日
合計新患五百九十四人	新舊死亡二百七十三人	新舊死亡六百九十九人	新舊死亡三百七十二人
流行地外虎列刺	北海道馳去の二十四日より二十五日迄	北海道馳去の二十四日より二十五日迄	新患七十五人
日迄新患二十一人	新舊死亡七十人	新舊死亡七十人	新舊死亡二十一人
新舊死亡十二人	琦玉縣去る二十五日	群馬縣一昨二十五日	新舊死亡十二人

新患一人死亡一人」茨城縣去る十五日より二十二日迄
新患二百八十九人新舊死亡百五十三人」栃木縣去る二
十四日新患十一人死亡八人」靜岡縣去る二十二日より
二十三日迄新患九人死亡一人」山梨縣一昨二十五日新
患三十一人、死亡十四人」長野縣去る二十四日より二十
五日迄新患一十八人新舊死亡六人

五日迄新患九十九人、新舊死亡四十九人、福島縣去る十四日より二十五日迄新患八人、死亡四人、青森縣去る二十五日新患十八人、死亡八人、秋田縣去る二十五日新患九十九人、新舊死亡六十人、山形縣去る二十五日新患三十七人、死亡二十八人、鳥取縣去る二十四日新患十七人、死亡十一人、徳島縣去る二十四日新患三人死亡三人

C仁川港輸出入の價格 本年八月七日附在仁川港領事館の報告に據るに去る五月中本邦より仁川港へ輸入せし貨物の總價格及同港より本邦へ輸出せし貨物の總價格の左の如し

(英產)六千圓餘米(日本產)
輸出品總價格二萬三千八百七十五圓三十四錢此の内
輸出の最多額あるものと擧ぐれば一萬圓餘金地(朝
鮮產)六千圓餘牛皮(朝鮮產)此外に當港より天津へ
輸出せし高百廿四圓ありと云ふ(以上本年八月廿七日官報

○英國公使館 同館員中には避暑の爲め旅行の人々多く
く公使アランケット氏秘書官レーベルト氏及び二等書
官ラルコム氏ハ日光ニ在り副領事ロンボールド氏並に
譯官ガゼンヌ氏ハ箱根^{はこね}に在りて皆避暑中ありと左れば

公使館に残り居て事務と取扱ふ者は公使代理一等書記官ツレンチ氏譯官見習クリヂス氏同ホース氏及び士官ジカク氏等ありと云ふ
○那須ノ原開墾 桑田變^{ハシタヘン}て海と爲の詩句あれば又「烟打や昔し爰^{ハカ}は海とやら」の發可ありざれを唐詩す

雉兎狐狸の巢窟ありし那須の曠原も七八年前より那須原開墾會社と三島通庸氏の二手にて開墾に從事して人烟を起々見るに至りしが猶近年大山西郷の兩伯も同所の開墾より着手し今は四手みて開墾を競ひ居る姿なれど

は數年と出でてさしもよ荒漠ありし原野も良田に變
することあらんが就中西郷伯の開墾場に當る所は三島
村を距る東西里許にて同所には今度日本鉄道會社に於
て停車場を設るといへば追々旅店料理店等も出來して
移住民の蕃殖するならんといふ

○播州の葡萄園 去る明治十二三年に墮今之三田育種場長ある池田謙藏氏が葡萄は生食、乾藏の外更に酒を譲し得べきものあれば一般に畑地にて之が栽培を爲すよ於ては在來の野菜よりも収穫頗る多く且つ全体の經

か東山然ども主張する
とあく帆船となく何等
さ三百里程に亘て福島
其の江口に至て最も大
きて砲台と此に設けられ
岸山又山を臺と接しき

東新嘉屋	八月二十四日	十五人
內上下兩京區三新起	一人斬薦死亡二	五人
大坂府	一百八十一人	
內四區西成郡三新起	百四十四人	
神奈川縣同	斬薦死亡七十二人	
內橫濱區二新起	十二人	
	斬薦死亡六人	
	六十五人	

官報